

むらまつ院長の医学ちょっと良い話コラム

「私が避難したら誰が患者を治療するんですか。自分の人生のためだけに、私は14年も学校に通ったわけではありません。私が医者になった理由はそうではありません」

ガザ地区最大のシファ病院 ハمام・アロー医師



世界では2か所で大きな戦争が起こっています。ウクライナと、もう一つがガザ地区です。ガザ南部の病院で活動する国境なき医師団の中嶋優子医師は言います。「病院や患者は攻撃しないというのは、戦争のルールなのですが、それすらも守られていないというのは、本当に、レベルが違う人道危機だと感じています。」ガザで働く現地の医師は、休む事もせず、決して逃げることもせず、空爆後に次々運ばれてくる開放骨折ややけどの患者を治療しています。彼らは口を揃えて、こう言うそうです。「自分はこのときのために医者になったんだ」と。

アロー先生は最も戦闘の激しい北部・シファ病院の腎臓内科医師です。アメリカの番組のインタビューに答えていたのが、この言葉です。彼は3日後に空爆のため亡くなりました。自分はパレスチナの人々を救うために医者になったんだと言いたかったと思います。

同じ医者として、頭が下がります。自分も同じ立場にいたら、アロー先生と同じ行動ができたでしょうか？それはわかりません。でも、悔しいんです。戦争は人が人を傷つける。それを医療人が助けようとしますが、多くは助かりません。医療人は戦争の前に無力です。でも、助けようとするんです。こんな悔しさを生み出したのも、また愚かな人です。人は、賢いはずです。一刻も早い解決を願うしか私にはできません。



「長門市民駅伝」に参加しました



1月28日に「第70回長門市民駅伝」に、男女各1チームずつ参加しました。当日は肌寒く、レース途中で雨に見舞われる天候でしたが、各選手、激走しました！！

その結果、男子チームは高校・一般3部で2区・井上清隆さん（リハビリ）が区間賞を獲得しました。そして、女子チームは4区・関矢もえさん（臨床検査科）、5区・田原由貴さん（薬剤科）、6区・藤本祐子先生（医局）が区間賞を獲得し、一般女子の部で優勝しました！

約4年ぶりに地域の行事に参加して、コロナ前の日常が返ってきたようで、本当に嬉しかったです。走り終わった後は、温かい肉うどんを食べて、来年も頑張ろうねー、と笑顔になりました。

看護部 三笠優子



笑顔